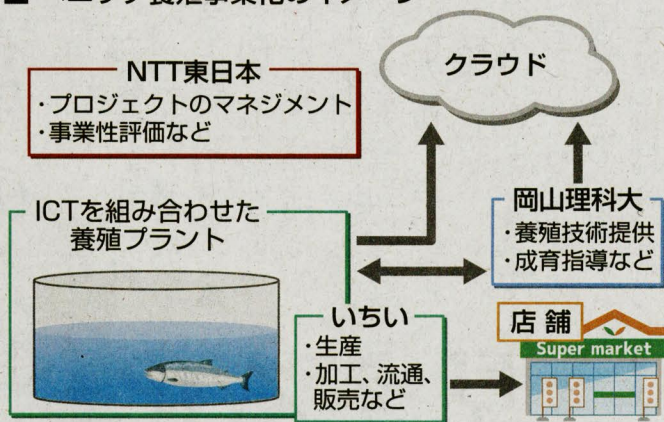


ベニザケ養殖実証

■ ベニザケ養殖事業化のイメージ



いちい、NTT東、岡山理科大

ICT駆使、24年事業化へ

スーパーのいちい（福島市）は21日から、NTT東日本、岡山理科大と共同でベニザケを陸上養殖する実証事業を始める。福島市のいちい本社の敷地内にある養殖設備で情報通信技術（ICT）を駆使し、水質などを効率的に管理する。来年8月末まで実証事業を続け、24年に世界初となるビジネス化を目指す。

【図】の通り。NTT東が水質センサーやカメラを備えた養殖設備を用意し、実証事業を全体的に管理す

る。いちいは生産や加工、流通、販売、売り上げデータの収集を担う。今秋にも、養殖ベニザケをいちいの県内店舗で販売する計画だ。岡山理科大は陸上養殖に適した人工海水や養殖のノウハウなどを提供し、ベニザケの成育指導に当たる。ベニザケは地球温暖化に伴う海水温の上昇により、国内で繁殖放流しても母川

に回帰せず、漁獲できないといった問題が顕在化しているという。

病気に弱く、成長が遅いなどの理由から養殖は成功していない。ビジネス化に向けては、養殖にかかる光熱費の低減などコスト面が

課題となる。

いちいは「鮮魚店として創業した歴史があり、安全・安心な魚を消費者に提供したい。ベニザケは市場での人気が高く、陸上養殖のビジネス化に向けた可能性がある」としている。